

第91期 中間報告書

2021年4月1日～2021年9月30日

(証券コード：7721)

ごあいさつ

投資家の皆様方に於かれましては、益々ご清祥のことと拝察申し上げます。

上期における我が国経済につきましては、感染力の強い新型コロナウイルスの変異株の出現により、感染が拡大した地域を中心に緊急事態宣言期間が長期化したものの、製造業をはじめとした設備投資の回復基調が継続されたほか、公共事業も堅調に推移しました。一方で、サプライチェーンにおいては半導体不足や原油・原材料の価格高騰が見られ、先行きに不透明感が残る状況となりました。

このような経営環境の下、当社グループの上期の売上高につきましては、前年同期並みの、183.8億円となりました。この理由は、防衛・通信機器事業で官需市場の需要が当期まで端境期により減収となったものの、油空圧機器事業においてプラスチック加工機械市場他すべての市場で売上が増加したほか、流体機器事業では主力の超音波流量計の販売が好調に推移し、加えて消火設備市場で大型案件の納入があり、増収となったことによります。一方、損益につきましては、前年同期に比べ、油空圧機器事業の生産増や防衛・通信機器事業の製品ミックスの変化により原価率が4.9億円改善されたことにより、営業損益は4.5億円の営業損失から0.3億円の営業利益、経常損益は3.1億円の経常損失から2.4億円の経常利益、親会社株主に帰属する四半期純損益は2.1億円の四半期純損失から2.3億円の四半期純利益と、すべての利益項目で黒字転換となりました。

上期に投入しました新商品につきましては、船舶港湾機器事業では、一般商船市場向けに可動部が無く信頼性が高い光ファイバージャイロコンパスTF-900を市場投入しました。また、その他の事業では、鉄道機器として従来機より小型軽量化した分岐器検査装置SPG-7を市場投入しました。いずれも、船舶の安全・安心な航行や、鉄道の安全・安心な運行に寄与するなど社会インフラの維持には欠かせない新商品であり、今後販売促進に注力してまいります。

下期の我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の懸念や、足下で拡大している半導体不足や、原油・原材料の価格高騰などにより、サプライチェーンの先行きに不透明感が続くものの、製造業を始めとした設備投資は回復基調を継続し、公共事業は堅調に推移することが見込まれています。このような経営環境の中、通期の業績予想につきましては、2021年5月14日に公表したとおり売上高は前期に比べ8.2億円(1.9%)上回る429億円を予想しています。また、損益につきましては、営業利益は1.0億円(8.0%)増益の13.5億円、経常利益は0.1億円(0.8%)増益の14.7億円、親会社株主に帰属する当期純利益は1.9億円(19.6%)増益の11.3億円と、増収・増益を予想しています。なお、セグメント別では、売上高は官需案件が当期まで端境期の防衛・通信機器事業を除くすべての事業が前期に比べ増収となり、損益は、前期に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け唯一営業損失となった油空圧機器事業は黒字転換し、すべての事業で営業利益を確保する見込みです。

このように、下期は新型コロナウイルス感染症に加え、サプライチェーンの問題に対し適切に対応し、着実に前期比増収・増益の達成に向け努めてまいります。

なお、当期の配当につきましては、期初に開示しました通り一株あたり普通配当25円に125周年記念配当5円を加え、合計30円の年間配当を実施する予定にしています。

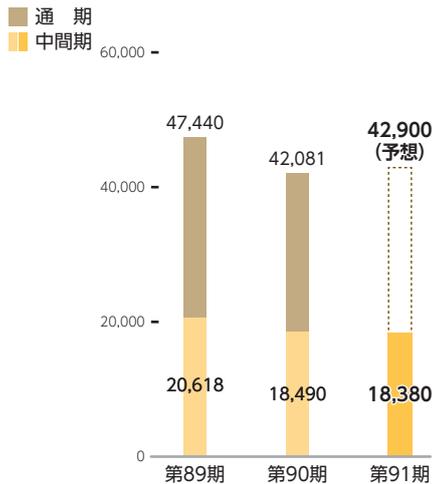
投資家の皆様方に於かれましては、引き続き、より一層のご支援とご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

代表取締役
社長執行役員

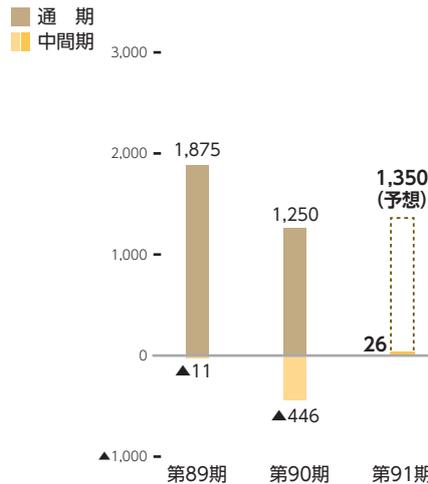
安藤 毅

決算ハイライト

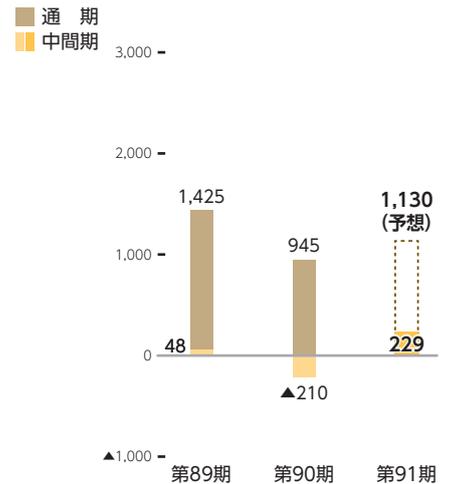
売上高 (単位: 百万円)



営業利益 (単位: 百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



セグメント情報

船舶港湾機器



オートパイロット

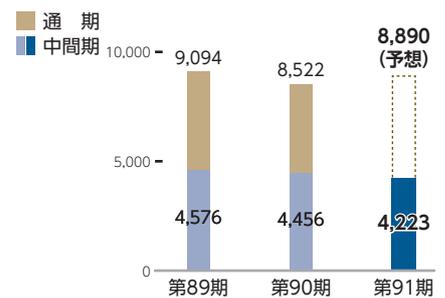


セグメント別売上高比率
23.0%

- 売上高 **4,223**百万円 ▼ **5.2%減** (前年同期比)
- 営業利益 **177**百万円 ▼ **21.8%減** (前年同期比)

Marine Systems Business

売上高 (単位: 百万円)



国内外の新造船市場では主力商品のオートパイロットPR-9000及びジャイロコンパスを中心に、拡販とさらなるコストダウンによる利益の確保を推進します。また新たに市場投入した可動部が無く信頼性が高い光ファイバージャイロコンパスTF-900により新たな価値を提案していきます。海外市場では、中国の内航船・漁船市場向けにジャイロコンパスTKG-1100及び中型オートパイロットPR-3000の拡販を推進します。中長期的には、当社が得意とする自動航行の技術をもとに、2025年までに本格的な実用化を目標とする自動運航船等の複数の研究開発プロジェクトに参加し、サステナブルな社会の実現に貢献していきます。

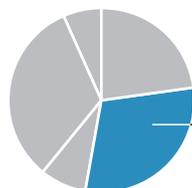
油空圧機器



耐圧防爆電磁切換弁



操作系インターフェイス

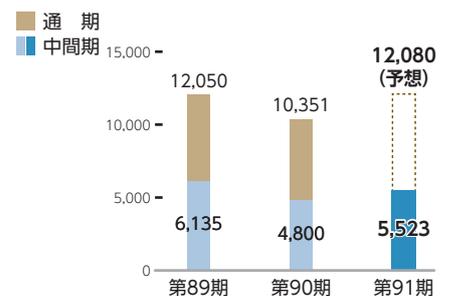


セグメント別売上高比率
30.0%

- 売上高 **5,523**百万円 ▲ **15.1%増** (前年同期比)
- 営業損失 **▲60**百万円 (前年同期 334百万円の営業損失)

Hydraulics and Pneumatics Business

売上高 (単位: 百万円)



建設機械市場は、引き続き売上規模拡大に注力し高圧化油圧機器のシリーズ化、次世代型電子機器（建機用ディスプレイ、操作系インターフェイス（HMI）など）の開発を進め国内外への深耕拡販戦略を加速させます。国内外成形機市場には、省エネ性能に優れた回転数制御システムなどを中心に、各種成形機メーカーへの拡販に注力することに加え、機械の予知保全を実現するIoT対応商品の開発も推進していきます。更に水素ステーション向け水素圧縮装置においては、移動式、定置式に加えフォークリフトなど小規模での運用を想定した小型水素充填装置や、それに必要な耐圧防爆電磁切換弁の開発等、製品ラインナップを増やし、脱炭素社会の実現に向けたサステナブルな商品の開発に注力します。

流体機器



高精度超音波流量計



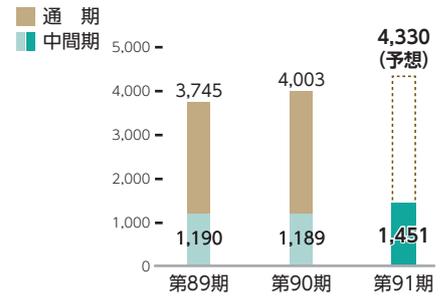
セグメント別売上高比率
7.9%

●売上高 **1,451**百万円 **22.1%増**
(前年同期比)

●営業損失 **△78**百万円
前年同期 176百万円の営業損失

Fluid Measurement Equipment Business

売上高 (単位: 百万円)



国内官需市場では、高精度超音波流量計として市場投入したUFR-300のシリーズ化開発を行い、上水道、農業用水を中心に売上拡大を推進します。また、昨今のゲリラ豪雨や河川・ため池の氾濫による水害対策等の社会課題の解決に対応するため、当社独自設計の簡易水位観測システムを開発のうえ市場投入し、危機管理型水位計MD-10、溢水対策用レベル計RPL-10等とともに防災関連商品の拡販を強化・推進します。消火設備市場では、立体駐車場に加え重要設備への拡販、大型化が進む危険物倉庫や食品工場など新たな市場の開拓に注力します。

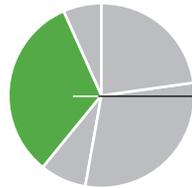
防衛・通信機器



AIS陸上局装置



ソリッドステートマイクロ波電源



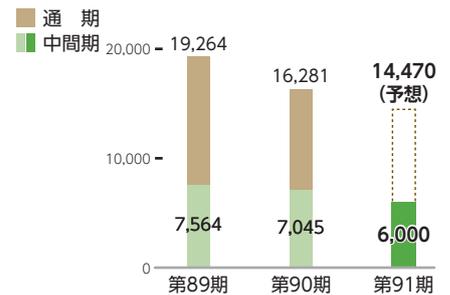
セグメント別売上高比率
32.6%

●売上高 **6,000**百万円 **14.8%減**
(前年同期比)

●営業利益 **69**百万円
前年同期 23百万円の営業損失

Defense and Communications Equipment Business

売上高 (単位: 百万円)

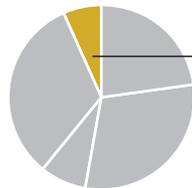


官需市場では、売上規模に適合した生産体制を維持しながら、将来の安定した収益を目指し、自衛隊の次期装備品向けに、当社が得意とする技術分野での商品提案を行っていきます。また、海外市場向け海域監視用新型半導体レーダーは、引き続き拡販に努めます。民需のセンサー機器市場では、農業の生産性に貢献出来る農業機械用自動化関連機器に引き続き注力します。高周波応用機器市場では、半導体製造装置用に高出力・高効率なソリッドステートマイクロ波電源の開発を進め、製品ラインナップのさらなる拡大と、タイムリーな市場投入に注力します。

その他



鉄道機器: 分岐器検査装置



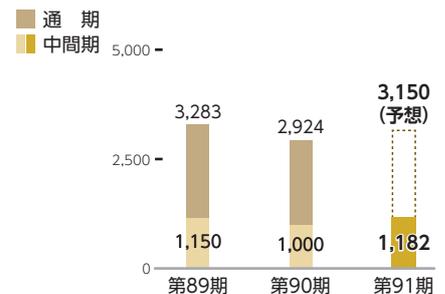
セグメント別売上高比率
6.4%

●売上高 **1,182**百万円 **18.2%増**
(前年同期比)

●営業損失 **△42**百万円
前年同期 107百万円の営業損失

Others

売上高 (単位: 百万円)



検査機器事業では、主力商品である印刷品質検査装置の拡販に注力し、国内トップシェアを維持するグラビア印刷市場を中心にシェア拡大に注力します。

鉄道機器事業では、従来機より小型軽量化した新型の分岐器検査装置SPG-7を市場投入し、国内市場の更新需要の掘り起こしや、国内外の新規需要開拓を強化するとともに、継続して新商品の開発を推進し、社会インフラとしての鉄道輸送の安全・安心の実現に貢献します。また、主力商品であるレール探傷車に続く複数の次期戦略商品の研究開発と早期市場投入に注力します。

フルードパワー国際見本市IFPEX2021に小型水素充填装置を出展

去る10月6日から8日にかけて、東京ビッグサイトにおいて第26回フルードパワー国際見本市IFPEX2021が開催され、近未来の水素社会の到来を見越し、当社グループの油空圧制御技術を応用して製品化した最新の「小型水素充填装置」を初展示いたしました。これは、既に市場投入済の移動式水素ステーション用、定置式水素ステーション用に次ぐ新商品で、燃料電池式のフォークリフトやドローンなどに水素を供給するための小規模型の装置です。内部に使用する電磁切換弁も当社が新たに開発した耐圧防爆電磁切換弁を使用しております。水素利用は脱炭素社会実現の切り札として注目を集めていることから、今後の活躍が期待される新商品です。

本展示会の風景を、当社ホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

<https://www.tokyokeiki.jp/topics/?itemid=515&dispmid=1123&TabModule841=0>



会社概要 (2021年9月30日現在)

- 商号 東京計器株式会社
- 英文社名 TOKYO KEIKI INC.
- 創業 明治29(1896)年5月1日
- 設立 昭和23(1948)年12月21日
- 資本金 7,217,597,300円
- 従業員 1,319名(連結1,709名)

役員一覧 (2021年9月30日現在)

代表取締役社長 執行役員	安藤 毅	
取締役執行役員	種具 良治	営業・サービス担当 兼電子システムカンパニー長
取締役執行役員	上野山 素雄	コーポレート・コミュニケーション担当 兼財務経理部長
取締役常務監査等委員	鹿島 孝弘	
取締役監査等委員	柳川 南平	
取締役監査等委員	中村 敬	

株式の状況 (2021年9月30日現在)

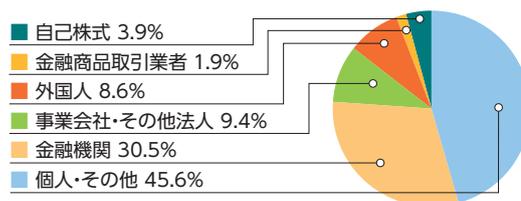
- 発行可能株式総数 50,000,000 株
- 発行済株式総数 17,076,439 株
- 株主数 8,791 名

大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,534	9.35
東京計器協会	1,195	7.29
東京計器取引先持株会	709	4.32
株式会社三井住友銀行	653	3.98
株式会社日本カストディ銀行	603	3.67
東京計器従業員持株会	496	3.03
日本生命保険相互会社	376	2.29
株式会社横浜銀行	373	2.27
株式会社KODENホールディングス	360	2.19
三菱UFJ信託銀行株式会社	339	2.06

- 注) 1. 信託銀行の所有株式には、信託業務に係る株式が含まれております。
2. 当社は2021年9月30日現在、自己株式を673,181株保有しておりますが、上位10名の株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



注) 本報告中の記載数値は、表示してある数値未満の端数を四捨五入しております。

● 株主MEMO

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎決算期の翌日から3ヶ月以内
- 期末配当金
受領株主確定日 3月31日
- 単元株式数 100株
- 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第1部
(証券コード：7721)

● 公告方法

公告は電子公告により、当社ホームページに掲載いたします。(https://www.tokyokeiki.jp/) 但しやむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

● 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先
東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部



東京計器株式会社

<お問い合わせ先>
〒144-8551 東京都大田区南蒲田2-16-46
TEL 03-3732-2111(代表) FAX 03-3736-0261 <https://www.tokyokeiki.jp/>

(ご注意)
株券電子化後、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則として口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)経由で行っていただくこととなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
未受領の配当金につきましては、引き続き株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行の本支店でお支払いいたします。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。